

## ■ 魂学校みぞばた校長 提言書

〈若者の未来を守る「人間力教育」の再構築について〉

### ■ はじめに

いま、日本の子ども・若者たちは、豊かな社会に生きていながら、人として幸せに生きるために最も大切な学びを失いつつあります。

礼節、気遣い、思いやり、感謝、対話力、社会で生きぬく力、そして“人に愛される力”。

これらは人生の土台であり、結婚・仕事・お金・人間関係すべてに直結します。しかし現代の教育現場では、こうした「心の教育」「人間力の教育」が弱まっており、若者たちは人生の根っこを学ばず社会に出ていく状況が生まれています。

教育とは、本来“人を幸せにするための営み”です。しかし今、その本質が忘れられつつあります。

私は、この流れを放置してはならないと強く感じています。これは、未来を生きる若者のためだけでなく、日本社会全体の未来に関わる問題だからです。

### ■ なぜ今「人間力教育」が必要なのか

#### 1. 若者が“人生の羅針盤”を持たずに育っている

13歳、15歳、18歳、22歳——

人生の節目にあるこの年代は、本来「人格の土台」「社会で生きる力」を養うべき大切な時期です。

しかし今の子どもたちは

・人に好かれるとは何か

・相手を思いやるとは何か

・言葉の使い方が心をどう作るか

・努力する意味

・お金との向き合い方

・良い人間関係の作り方を教わる機会がほとんどありません。

#### 2. “結婚できない若者”が増える本当の理由

恋愛や結婚ができない若者が増えているのは、「出会いがない」からではありません。

“人としての温かさ・愛される力・思いやりの心”を学ばず育っているからです。

これは社会の根っこを揺るがす深刻な問題であり、将来の出生率、家庭、地域づくり、企業の人材育成にまで影響します。

#### 3. 明治の日本には“熱い大人”がいた

明治の日本は、教育とは「人をつくり、社会をつくり、未来をつくる営み」だという気概に満ちていました。

親も教師も地域の大人たちも、「いい人間を育てる」という熱い魂を持っていました。

しかし今、多くの大人は無関心。「自分のことだけ」になりつつあります。

この流れを変えることが、私みぞばた校長——魂学校の使命です。

## ■ 魂学校みぞばた校長の提案

私は、教育委員会・学校・地域社会と協力し、13歳、15歳、18歳、22歳の若者たちに向けて以下の内容を体系的に届けたいと考えています。

### ◎ 若者の未来を守る 「魂の人間力教育プログラム」

内容は次の通りです。

#### ① 豊かな心を育てる

- ・礼節・挨拶・言葉の大切さ
- ・心のきれいさ、感謝の習慣
- ・他者への思いやり、気遣い、気くばり

#### ② 人に好かれる力を育てる

- ・愛される人格の条件
- ・好印象の作り方
- ・相手を尊重する姿勢

#### ③ 積極性・前向き思考の育成

- ・自分を責めない心
- ・挑戦する姿勢
- ・失敗を成長に変える視点

#### ④ お金・仕事・社会の心構え

- ・働くとは何か
- ・お金との正しい向き合い方
- ・責任と自立

#### ⑤ 結婚・家庭の価値を学ぶ

- ・なぜ家庭が人生を豊かにするのか
- ・愛とは何か
- ・良い伴侶になるための心の準備

これは、単なる道徳教育ではありません。  
“人が幸せに生きるための実学”です。

### ■ おわりに —— 「教育とは、人を幸せにすること」

教育の目的は、知識を覚えさせることではありません。  
子どもや若者が、自分の人生を幸せに生きられるようにすることです。

いま日本に必要なのは、もう一度“教育の原点”を取り戻すこと。

現代の無関心を乗り越え、  
かつて明治の日本にあったような  
“若者の未来に本気で向き合う大人”を増やすことです。

私は、魂学校みぞばた校長として、この改革を強く訴え、教育委員会や企業の皆さまに協力をお願いするものです。

若者の未来を救うのは、今を生きる大人の使命です。  
ぜひ共に、次の時代の日本をつくりましょう。